

食品安全情報（微生物） No.25 / 2024（2024.12.11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. キュウリに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Typhimurium）感染アウトブレイク（2024年12月5日付更新情報、11月29日付初発情報）
2. そのまま喫食可能な（ready-to-eat）食肉・家禽肉製品に関連して複数州にわたり発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2024年12月5日付更新情報）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：ヤモリに関連して複数州にわたり発生した（*Salmonella* Lome）感染アウトブレイク（2024年5月14日付最終更新）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【英国食品基準庁（UK FSA）】](#)

1. 英国食品基準庁（UK FSA）が学校における食品基準の遵守状況に関するパイロットプログラムの最終報告書を発表

[【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】](#)

1. アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年（赤痢）

[【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】](#)

1. 家禽肉は無菌ではない：台所の衛生管理は抗生物質耐性細菌の予防にも有効である
2. サルモネラ対策プログラムの2023年次報告書：陽性率は低レベルを維持

[【ProMED-mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（81）（80）（79）（78）（77）（76）
2. 原因疾患不明の死亡、コレラの疑い（ナイジェリア）
3. コレラ、デング熱：死亡者および患者が増加（スーダン）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. キュウリに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイク (2024年12月5日付更新情報、11月29日付初発情報)

Salmonella Outbreak Linked to Cucumbers

December 5 & November 29, 2024

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/cucumbers-11-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/cucumbers-11-24/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/cucumbers-11-24/locations.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、キュウリに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイクに関する情報を発表した。

2024年12月5日付更新情報

○ 公衆衛生上の措置

多数の業者が、回収対象のキュウリおよびこれらを使用した食品を回収している (以下 Web ページの回収食品リスト参照)。

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/cucumbers-11-24/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、回収対象のキュウリを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。米国食品医薬品局 (US FDA) は、Agrotato, S.A. de C.V.社が栽培したキュウリのその他の輸入業者と連携しながら対応を継続している。

2024年11月29日付初発情報

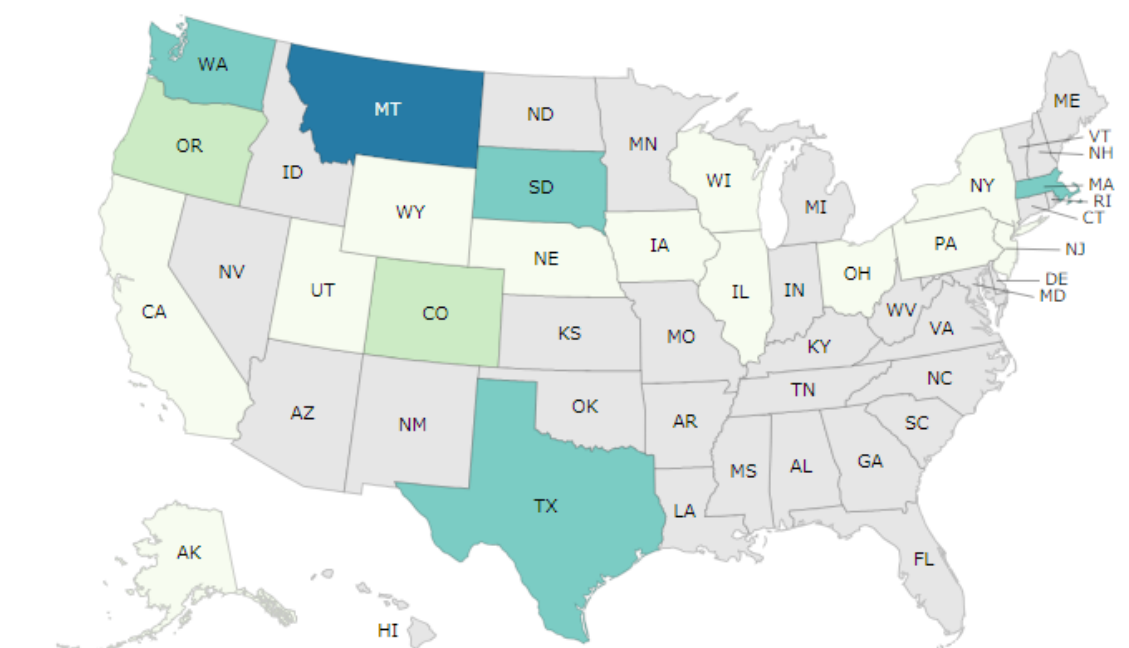
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、SunFed Produce 社が回収している製品など、Agrotato, S.A. de C.V.社 (メキシコ Sonora) が栽培したキュウリがサルモネラに汚染されている可能性があり、本アウトブレイクの感染源となっている可能性があることを示唆している。

○ 疫学データ

2024年11月26日時点で、*S. Typhimurium* アウトブレイク株に感染した患者計68人が19州から報告されている(図)。患者の発症日は2024年10月12日～11月16日である。情報が得られた患者50人のうち18人が入院した。死亡者は報告されていない。

図：サルモネラ (*Salmonella Typhimurium*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数(2024年11月26日時点の計68人)



Number of Sick People

- 1 to 3
- 7 to 9
- 4 to 6
- 16

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前1週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢（n=68）	年齢範囲：1 歳未満～98 歳 年齢中央値：27 歳
性別（n=68）	66%：女性 34%：男性
人種（n=39）	85%：白人 10%：アフリカ系アメリカ人または黒人 5%：アジア系
民族（n=42）	90%：非ヒスパニック系 10%：ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。情報が得られた患者 33 人のうち 27 人（82%）がキュウリの喫食を報告した。この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）において、回答者の 50%が調査実施日前 1 週間にキュウリを喫食したと報告した結果と比べ有意に高い。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者がキュウリの喫食によって感染したことを示唆している。

CDC および各州の当局は、介護付き住宅施設 2 カ所、学校区 3 カ所および飲食店 1 カ所に関連した計 6 つの患者サブクラスターを特定した。患者サブクラスターは、飲食店・長期介護施設・学校など、同じ場所または同じ行事で食事をした互いに関連のない患者で構成されるグループである。サブクラスターの調査は、全ての患者が喫食した食品の特定に役立ち、アウトブレイクの原因食品の特定につながる可能性がある。上記のサブクラスターに関連した 6 カ所でキュウリが提供された。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS（全ゲノムシーケンシング）法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

患者由来 40 検体から分離されたサルモネラ株について WGS 解析を行った結果、抗生物質耐性の存在は予測されなかった。抗生物質耐性に関する詳細情報は、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) の以下の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

患者は、様々な飲食店や施設でのキュウリの喫食、および様々な小売店舗でのキュウリの購入を報告した。FDA による追跡調査から、患者に関連したキュウリに共通する単一の栽培業者として Agrotato, S.A. de C.V.社が特定された。

○ 公衆衛生上の措置

2024 年 11 月 27 日、SunFed Produce 社はキュウリの回収を発表した（以下 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/sunfed-produce-llc-recalls-whole-fresh-american-cucumbers-because-possible-health-risks-due>

同社はまた、顧客にも回収の通知を個別に行う予定である。CDC は、回収対象のキュウリを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。FDA は、Agrotato, S.A. de C.V.社が栽培したキュウリのその他の輸入業者と連携しながら対応を継続している。

2. そのまま喫食可能な (ready-to-eat) 食肉・家禽肉製品に関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2024 年 12 月 5 日付更新情報)

Listeria Outbreak Linked to Ready-to-Eat Meat and Poultry Products

December 5, 2024

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/meat-and-poultry-products-11-24.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/investigation-update-meat-and-poultry-11-24.html> (Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/locations-meat-and-poultry-11-24.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国農務省食品安全検査局 (USDA FSIS) は、複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

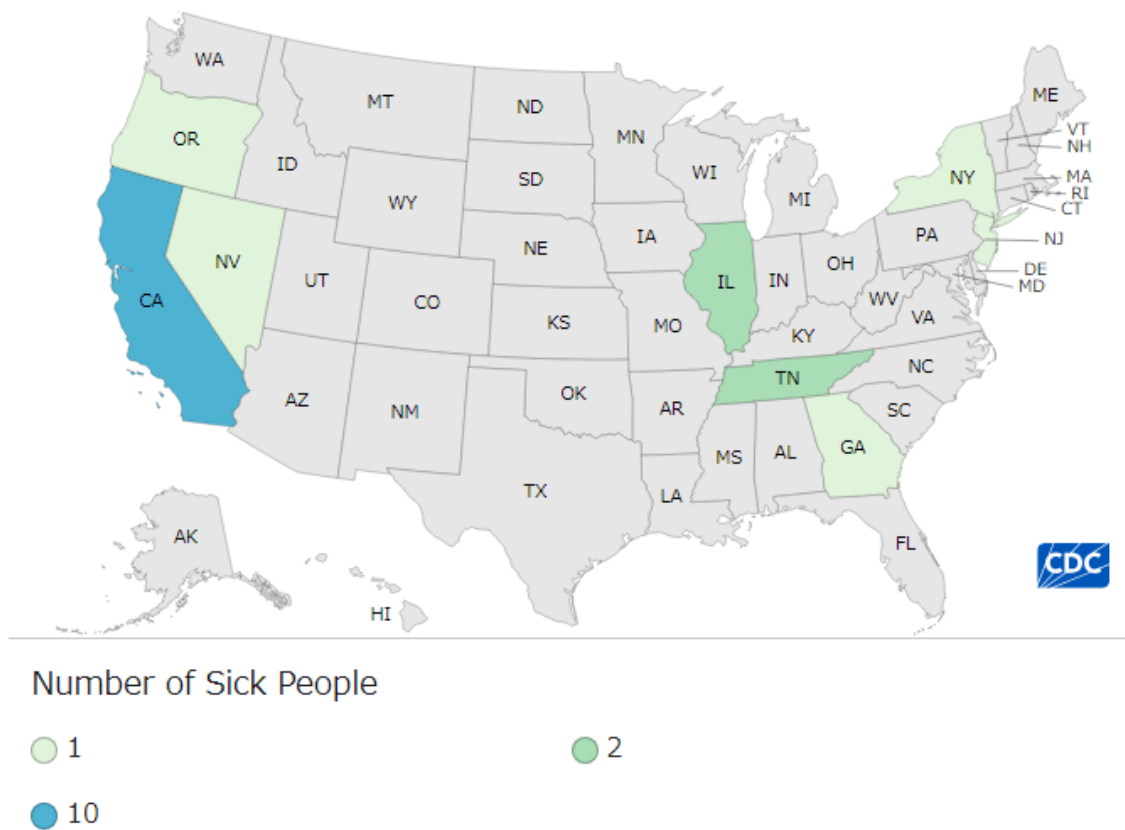
疫学データおよび検査機関での検査データは、Yu Shang Food 社が供給した「そのまま喫食可能な (RTE : ready-to-eat) 食肉・家禽肉製品」がリステリアに汚染されており、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 疫学データ

2024 年 11 月 22 日付初発情報以降に、新たなリステリア患者計 8 人が 5 州から報告され

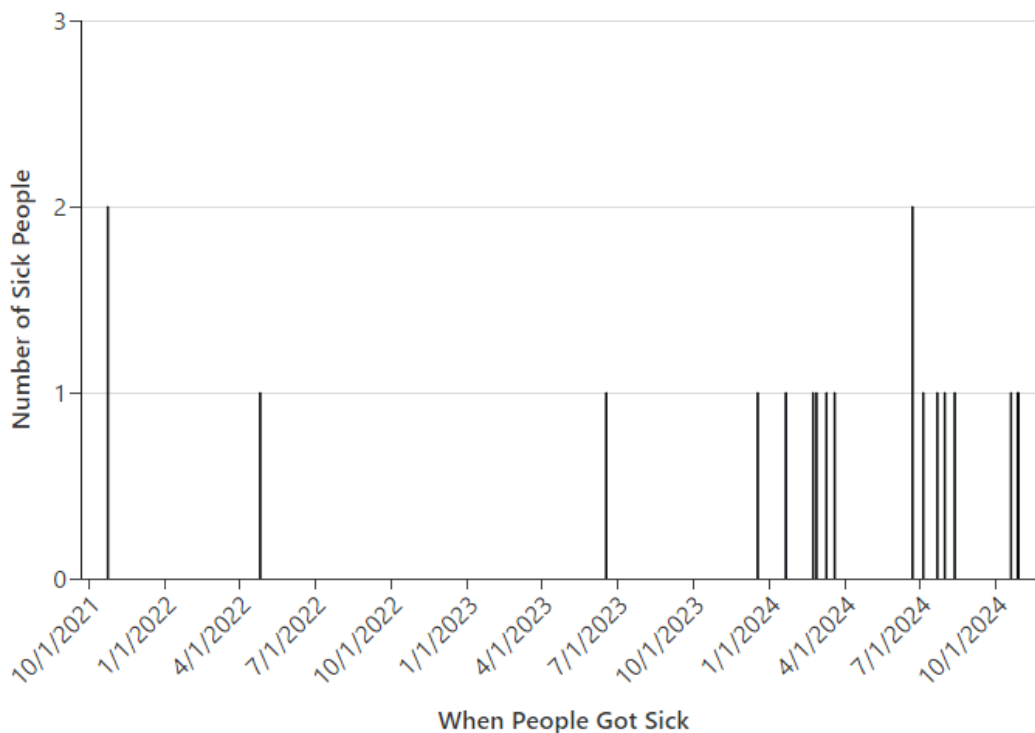
た。これらの患者 8 人は、食品検体および環境検体から別のリステリア株が検出されたことを受けて特定された。2024 年 12 月 5 日時点で、*L. monocytogenes* アウトブレイク株に感染した患者計 19 人が 8 州から報告されている（図 1）。

図 1：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数（2024 年 12 月 5 日時点の計 19 人）



患者由来検体は 2021 年 10 月 24 日～2024 年 10 月 28 日に採取された（図 2）。

図 2：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2024 年 12 月 5 日時点の計 19 人)



- ・ 情報が得られた全患者 19 人のうち 17 人 (89%) が入院した。
- ・ 患者 7 人は妊娠に関連している。
- ・ 妊婦 1 人は発症し回復した。
- ・ 相互に関連のない乳児 2 人が発症し回復した。
- ・ カリフォルニア州で女性 1 人およびその乳児 2 人 (双子) が発症し、乳児は 2 人とも死亡した。この女性由来 1 検体および乳児のうち 1 人由来の 1 検体からはリステリアが検出されたが、もう 1 人の乳児由来の 1 検体からはリステリアは検出されなかった。したがって、この女性および乳児 1 人は本アウトブレイクの確定患者に分類された。
- ・ テネシー州で女性 1 人およびその乳児 1 人が発症し、この乳児は死亡した。

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している (表)。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢（n=19）	年齢範囲：1歳未満～86歳 年齢中央値：59歳
性別（n=19）	68%：女性 32%：男性
人種（n=19）	100%：アジア系
民族（n=17）	100%：非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。患者は、様々な小売店で食品を購入したことを報告した。聞き取りが実施された患者 14 人のうち 11 人が、Yu Shang Food 社の食品を販売する店舗で食品を直接購入またはオンライン購入していた。調理済み鶏肉製品に関する質問に回答した 13 人のうち、8 人（62%）が調理済み鶏肉製品を喫食したと報告し、3 人（38%）は具体的に Yu Shang ブランドの RTE 鶏肉製品の喫食を報告した。

○ 検査機関での検査データ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS（全ゲノムシーケンシング）法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたリステリア株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

2024 年 10 月 21 日、FSIS は Yu Shang Food 社の最終製品の通常検査およびフォローアップ検査を実施した。その結果、当該製品がリステリアに汚染されていることが確認された。WGS 解析の結果は、豚鼻製品から検出されたリステリア株が本アウトブレイクの患者由来株と近縁であることを示した。この結果は、患者が Yu Shang Food 社製の食品の喫食により感染した可能性が高いことを意味している。

これらの調査結果を受けて、FSIS は、Yu Shang Foods 社で製品由来検体および製造施設の環境由来検体を追加採取した。WGS 解析の結果、これらの検体から検出されたリステリア株は、PulseNet データベースに登録されていた別の患者 8 人由来の株と関連しており、豚鼻検体由来の株、および既に本アウトブレイクの患者として特定されていた 11 人由来の株とは異なっていた。これらの患者はすべて同一調査の対象として統合された。

○ 公衆衛生上の措置

Yu Shang Food 社は、2024 年 11 月 9 日に RTE 食肉・家禽肉製品の回収を開始し、11 月 21 日に回収対象を拡大した（以下各 Web ページ参照）。

<https://www.fsis.usda.gov/recalls-alerts/yu-shang-food-inc--recalls-ready-eat-meat-and-poultry-products-due-possible-0>（11 月 21 日）

<https://www.fsis.usda.gov/recalls-alerts/yu-shang-food-inc--recalls-ready-eat-meat-and-poultry-products-due-possible-listeria>（11 月 9 日）

CDC は、回収対象製品を喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

（食品安全情報（微生物）No.24 / 2024（2024.11.27）US CDC 記事参照）

● カナダ公衆衛生局（PHAC: Public Health Agency of Canada）

<https://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：ヤモリに関連して複数州にわたり発生した（*Salmonella Lome*）感染アウトブレイク（2024 年 5 月 14 日付最終更新）

Public Health Notice: Outbreak of *Salmonella* infections linked to geckos

May 14, 2024 – Final Notice

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice/2024/outbreak-salmonella-geckos.html>

カナダ公衆衛生局（PHAC）は、複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella Lome*）感染アウトブレイクに関する最終更新情報を発表した。本アウトブレイク調査は終了したが、ヤモリなどの爬虫類はサルモネラ菌を保菌していることがあるため、患者の報告はまだ続く可能性がある。

PHAC は、複数州の公衆衛生当局と協力し、7 州（ブリティッシュ・コロンビア、アルバータ、サスカチュワン、マニトバ、オンタリオ、ケベック、ニューブランズウィック）にわたり発生したサルモネラ（*S. Lome*）感染アウトブレイクを調査した。

調査の結果から、本アウトブレイクの原因がヤモリとの接触である可能性が高いことが特定された。

患者の多くが発症前にペットのヤモリまたはその飼育環境と直接・間接的に接触していたことを報告した。一部の患者は、ヤモリと直接接触はしていなかったが、ヤモリが飼育

されている家に居住していた。

ヤモリに共通する単一の供給元は特定されなかった。

調査は終了したが、本アウトブレイクは、ヤモリなどの多くの種類の動物がサルモネラに汚染されている可能性があることを再認識させるものである。爬虫類は、健康に見える場合でも、サルモネラなどの細菌を保菌し拡散させる可能性がある。

ヤモリやその飼育環境と接触した後は、手指の衛生管理や頻繁な手洗いを励行すべきである。この助言は、本アウトブレイクおよび爬虫類に関連して過去に発生したサルモネラ感染アウトブレイクの調査結果にもとづいている。これらのアウトブレイクにより、ペットの爬虫類に関連した新たな患者発生を防ぐために所有者や取扱い業者が重要な役割を果たすことが明確に示されている。

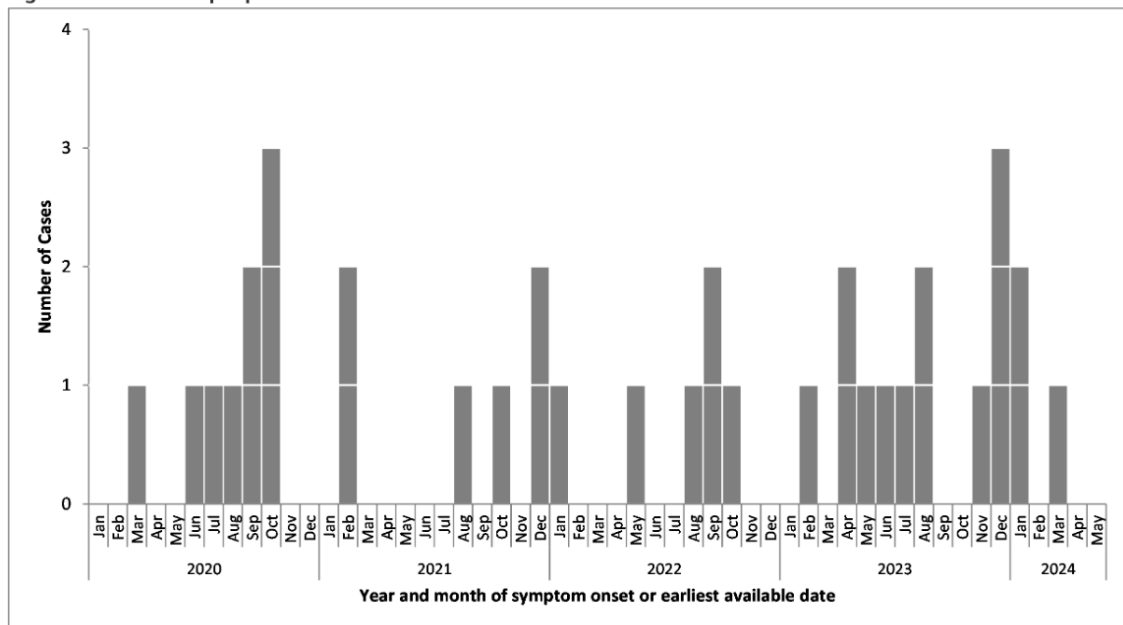
○ 調査の概要

本アウトブレイクにおいて、2024年5月14日までに *S. Lome* 感染確定患者が計36人報告され、州別の内訳は、ブリティッシュ・コロンビア（2人）、アルバータ（2）、サスカチュワン（2）、マニトバ（2）、オンタリオ（19）、ケベック（8）、およびニューブランズウィック（1）であった。

患者の発症日は2020年3月～2024年3月であった（図1）。患者5人が入院した。死亡者は報告されなかった。患者の年齢範囲は0～84歳で、8人（22%）が5歳以下であった。患者の64%が女性であった。

図1：サルモネラ（*Salmonella Lome*）感染アウトブレイクの発症月別患者数（2024年5月14日時点の計36人）

Figure 1: Number of people infected with *Salmonella Lome*



患者 1 人の自宅のヤモリの飼育環境からサルモネラアウトブレイク株が検出された。

(食品安全情報 (微生物) No.7 / 2024 (2024.04.03) PHAC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2024 年 11 月 19 日～12 月 2 日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

イタリア産の生乳チーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産七面鳥首皮のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、イタリア産ソーセージのサルモネラ属菌、イタリア産ルッコラのサルモネラ (*S. Stanleyville*)、ポーランド産の生肉製品 (チキンケバブ) のサルモネラ属菌、ドイツ産冷凍牛肉・家禽肉ケバブのサルモネラ属菌 (5/5 検体陽性)、フランス産ミニソーセージのリストeria、ポーランド産ベーコンのリストeria (*L. monocytogenes*)、フランス産の生乳チーズのエルシニア (*Y. enterocolitica*)、フランス産ソフトチーズの黄色ブドウ球菌 (*S. aureus*)、ポーランド産鶏脚肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、イタリア産低温殺菌済み卵白のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、オランダ産の生ペットフードのサルモネラ、フランス産羊乳チーズのリストeria (*L. monocytogenes*)、ラトビア産冷燻魚のリストeria (*L. monocytogenes*)、ベルギー産牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx+*、*eae+*)、セルビア産ブラ

ックベリーのノロウイルス、生乳ルブロンチーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産燻製ウナギのリステリア (*L. monocytogenes*) など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

ウクライナ産の卵のサルモネラ、レバノン産タヒニのサルモネラ属菌、オランダ産鶏肉製品のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、フランス産の生乳チーズの志賀毒素産生性大腸菌、鶏脚肉ステーキ (骨なし) のサルモネラ (*S. Infantis*)、ウクライナ産冷蔵鶏肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、イタリア産 (スペイン産原材料使用) イガいのノロウイルス、ポーランド産の生鮮鶏手羽肉のサルモネラ (*S. Infantis*、1/5 検体陽性)、スペイン産加熱済み豚足のリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産冷蔵もも肉製品 (骨なし) のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、スモークトラウトのリステリア (*L. monocytogenes*)、アイルランド産 RTE 鶏手羽肉のリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産の生鮮鶏骨付きもも肉のサルモネラ (*S. Infantis*、2/5 検体陽性)、ブラジル産鶏肉のサルモネラと大腸菌、マラウイ産 (英国経由) マカダミアナッツのサルモネラ属菌、トルコ産キャットフードの腸内細菌科菌群、ポーランド産の生鮮鶏もも肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、1/5 検体陽性)、イタリア産二枚貝の大腸菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

オーストリア産ペットフード用加工動物タンパク質 (カテゴリー3 動物副産物) のサルモネラ属菌、ドイツ産冷凍鶏肉のサルモネラ属菌、ハンガリー産冷凍鴨むね肉のサルモネラ (*S. Senftenberg*)、ポーランド産の生鮮家禽肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ハンガリー産冷凍鶏肉のサルモネラ属菌、ポーランド産亜麻仁ミールのサルモネラ属菌、イタリア産有機菜種搾油粕のサルモネラ属菌など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ベラルーシ産菜種ミールのサルモネラ (*S. Mbandaka*)、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌、マリ産ゴマ種子のサルモネラなど。

● 英国食品基準庁 (UK FSA: Food Standards Agency, UK)

<https://www.food.gov.uk>

英国食品基準庁 (UK FSA) が学校における食品基準の遵守状況に関するパイロットプログラムの最終報告書を発表

Food Standards Agency publishes final report on School Food Standards compliance pilot
1 August 2024

<https://www.food.gov.uk/print/pdf/node/24011> (PDF 版)

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/food-standards-agency-publishes-final-report-on-school-food-standards-compliance-pilot>

英国食品基準庁 (UK FSA) および英国教育省 (UK DfE) は、イングランドの複数の地方自治体当局と共同で学校における食品基準の遵守状況に関する調査を実施し、その最終報告書を発表した。このパイロットプログラムの目的は、学校での食品の調理や提供について、学校の食品基準に違反している可能性のある事例を探知するため、食品衛生検査を行う食品安全担当者が適切な質問や調査ができたかどうかを確認することである。違反の可能性のある事例について学校が改善を行う際に、地方自治体当局がそれを支援することができたかどうかについても検討された。

報告書によると、食品安全担当者は、業務量が多いことによる負担はあったものの、基準の遵守状況の確認と食品衛生検査を実施することができていた。学校は、遵守状況を確認することが食品規定の見直しにつながる場合があるため、調査を歓迎していることを報告した。違反の可能性のある事例が見つかった学校でフォローアップ調査を行う際、学校側が協力的・積極的である場合、または地方自治体当局に学校への支援を行う能力がある場合に調査の効果があることがわかったが、必ずしもそのような理想的な状況であるとは限らなかった。

今回の報告では、調査を行う際に、たとえば「食肉製品」など一部の食品の定義が統一されていないことが示された。地方自治体当局、学校および食品提供事業者の間でのコミュニケーションに問題があり、違反の可能性のある問題に取り組む際に特にその影響が見られた。

推奨事項として、違反の可能性のある事例に続けて、標準化されたフォローアップ手順書を作成することなどが挙げられた。この手順書は、フォローアップを各地域でどのように行うべきかを詳細に説明するのではなく、目標とすべき成果の種類を説明するものにする。また、現行のモデルとシステムに調和させるため各地域の方法を調整できるように柔軟性のあるものにするのが推奨されている。

(食品安全情報 (微生物) No.10 / 2022 (2022.05.11) UK FSA 記事参照)

- アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland）

<https://www.hpsc.ie>

アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年（赤痢）

Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022: Shigellosis in Ireland

January 2024

<https://www.hpsc.ie/a->

[z/gastroenteric/salmonellosis/surveillance-reports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset-Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20\(002\).pdf](https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/salmonellosis/surveillance-reports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset-Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20(002).pdf)（各種データの PDF）

Annual Reports on Shigellosis

<https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/shigellosis/epidemiological-data/annual-reports/>

アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）は、「アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年（Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022）」を発表した。このうち、赤痢に関する内容の一部を以下に紹介する。

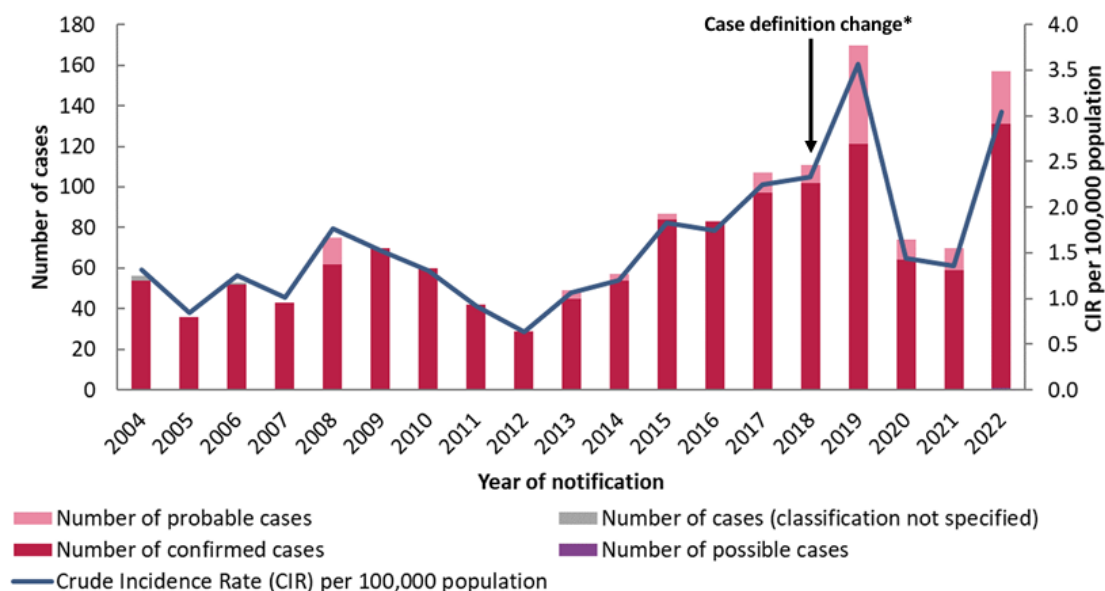
アイルランドの赤痢：2004～2022年の傾向

赤痢の人口10万人あたりの粗罹患率（CIR）は2013年から上昇傾向にあり、2019年が最も高かった（3.6）。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック中の2020年および2021年のCIRは低かったが、2022年（3.0）は2021年の2倍以上に上昇した。

図：アイルランドの赤痢：2004～2022年の傾向

Shigellosis in Ireland: trends, 2004-2022



*During 2018 the [shigellosis case definition](#) changed to facilitate the reporting of PCR positive, culture negative cases as Probable cases

Data source: Computerised Infectious Diseases Reporting System (CIDR) 22/11/2023

(* 2018年に赤痢の症例定義が変更され、「PCR陽性で培養陰性」の患者を高度疑い患者として報告することになった。)

アイルランドの赤痢：アウトブレイクおよびクラスター（2022年）

2022年に報告された赤痢アウトブレイクは3件で（一般アウトブレイク2件、家庭内アウトブレイク1件）、2020年（1件）および2021年（2件）よりやや増加したが、2019年（5件）よりは少なかった。

- 2022年【编者注：原文では“2023”と記載されている】に報告されたアウトブレイクはすべて小規模で、1件あたりの患者数は2～6人であった。
 - ・ 一般アウトブレイクのうち1件は病院1カ所、もう1件はコミュニティで発生した。
- 2022年に国立サルモネラ・赤痢・リステリアリファレンス検査機関（NSSRL）で全ゲノムシーケンシング（WGS）解析が行われた赤痢菌分離株のうち、遺伝学的関連が認められなかったのは28%（n=23）のみであった。
- 赤痢菌分離株の72%（n=60）が、相互に明確に区別できる微生物学的クラスターとして、新規の4クラスターおよび既存の8クラスターに分類された。

- ・ 新規のクラスターは概ね小規模で、1 クラスターあたりの患者数は 2～3 人であった。
- ・ 既存のクラスターはこれより大規模な傾向にあり、一部のクラスターでは特に古い患者が 2017～2018 年に特定されており、患者の多くが男性同性愛者・両性愛者・男性間性的接触者 (gbMSM) であった。
- ・ アイルランドの gbMSM における抗微生物剤耐性赤痢菌の感染患者クラスターを調査するため、分野横断的なインシデント対応チームが 2023 年に設立された。

アイルランドの赤痢：2022 年の概要

- ・ 2022 年は赤痢患者 157 人が報告された。
- ・ 人口 10 万人あたりの患者報告率は 2021 年の 1.4 から 2022 年は 3.0 に上昇し、COVID-19 パンデミック前に近いレベルになった。
- ・ 患者の 60%が成人男性であった。
- ・ 2022 年の CIR を保健サービス局 (HSE) の管轄地域別にみると、中西部地域が最も高かった。
- ・ 2022 年に最も多く報告された菌種は、*Shigella flexneri* であった。
- ・ 欧州以外への国外旅行に関連した患者は小児および成人女性が多かったが、国内感染は成人男性が多かった。これは、小児および成人女性では国外旅行による感染リスクが高いが、成人男性では性的接触が重要なリスク因子であることを示唆している。
- ・ 2022 年【编者注：原文では“2023”と記載されている】に小規模な赤痢アウトブレイク 3 件が報告されたほか、相互に明確に区別できる複数の微生物学的クラスターが特定された。これらのクラスターの調査、公衆衛生対策および臨床的介入が実施されている。
- ・ 2022 年のアイルランドの罹患率は、欧州連合／欧州経済領域 (EU/EEA) 加盟国の平均より高かった。

(食品安全情報 (微生物) No.15 / 2024 (2024.07.24) ECDC 記事参照)

-
- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)
<https://www.bfr.bund.de/>

1. 家禽肉は無菌ではない：台所の衛生管理は抗生物質耐性細菌の予防にも有効である
Poultry meat is never sterile: kitchen hygiene also protects against antibiotic-resistant bacteria
21 June 2024

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/poultry-meat-is-never-sterile.pdf> (PDF)

食肉生産用に飼育される動物への抗生物質の使用および抗生物質耐性は、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) などいくつかの機関が重点的に取り組んでいるテーマである。BfR は、家禽肉の内部および表面の抗生物質耐性菌に関する一般消費者からの照会に応え、可能性のある健康リスク、台所の衛生管理の重要性、および食肉生産用に飼育される動物への抗生物質の使用率の状況に関する情報を提供している(以下 Web ページ参照)。

https://www.bfr.bund.de/de/a-z_index/antibiotikaresistenz-61681.html (ドイツ語)

生鮮食肉は無菌の食品ではない。家禽肉の内部および表面には抗生物質耐性菌などの細菌が常に存在している。食肉が十分な温度で加熱調理されれば、これらの細菌は死滅する。しかし、台所の衛生管理が不適切な場合、サラダやパンなど、喫食前に加熱調理されない食品がこれらの細菌に汚染される可能性があり、結果として、サルモネラ、カンピロバクター、特定のタイプの大腸菌などによる胃腸疾患につながる可能性がある。ただし、大腸菌はほとんどのタイプが直接は疾患につながらない腸内の一般的な常在細菌である。

食肉生産用に飼育される動物への抗生物質の使用状況は、2022年の状況に関する BfR の直近の年次報告書から、肉用の鶏・七面鳥を含む調査対象の動物群における抗生物質使用量が、全体として 2021 年より 12%減少したことが示された。また使用頻度も低下した。ただし、調査対象のすべての動物群の中では、肉用鶏における使用頻度が最も高かった。また、肉用鶏由来の細菌は抗生物質耐性率が最も高かった。

2. サルモネラ対策プログラムの 2023 年次報告書：陽性率は低レベルを維持

Salmonella control programme – results for 2023: stable situation with low levels

6 August 2024

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/salmonella-control-programme-results-for-2023-stable-situation-with-low-levels.pdf> (報告書 PDF)

欧州連合 (EU) 全域を対象に実施されているサルモネラ対策プログラムにおいて、加盟各国は最新の状況に関する年次報告書の作成を求められている。この報告書では、繁殖用家禽 (ニワトリ)、産卵鶏、ブロイラーおよび繁殖・肥育七面鳥におけるサルモネラ陽性率が詳述されており、ヒトの感染症において極めて重要な特定の血清型の検出に特に焦点が置かれている。ドイツ連邦の各州はモニタリングおよび管理対策を行う義務があり、報告書データの評価を管轄する連邦当局に調査結果を毎年提出している。この調査結果データは、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) が作成する「サルモネラ対策プログラムに関する年次報告書」に使用されている。

2023 年のデータを評価した結果、2022 年までと同様に、全体的な状況は良好であること

を示すエビデンスが得られた。報告書で評価されたすべての動物種・生産種でサルモネラ陽性率が低レベルであった。対策プログラムにおいて重要度の高い (control-relevant) 上位 5 種類のサルモネラ血清型 (*Salmonella* Enteritidis、*S. Typhimurium* (単相性変異株を含む)、*S. Infantis*、*S. Hadar*、*S. Virchow*) については、評価が行われた全種類の家禽群で目標値が達成された。当該 5 種類の血清型の家禽群における陽性率の目標値は、EC 規則 (Regulation (EC) No. 2160/2003) の要件により、1%または 2% (産卵鶏) 以下と設定されている。

(食品安全情報 (微生物) No.1 / 2021 (2021.01.06)、No.18 / 2012 (2012.09.05)、No.1 / 2012 (2012.01.11)、No.25 / 2010 (2010.12.01) BfR 記事参照)

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報 (81) (80) (79) (78) (77) (76)

Cholera, diarrhea & dysentery update (81) (80) (79) (78) (77) (76)

4 December & 29, 25, 20 November 2024

コレラ、下痢 (AWD : 急性水様性下痢)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
ガーナ	12/1	ウェスタン州セコンディ・タコラディ	直近 1 週間	5	3
			11/4~20	(確定)23 (疑い)79	
			12/1 の発表	(確定)累計 28 (疑い)累計 161	
ガーナ	11/22	セントラル州*	10/31~	(確定)47 (疑い)720	7**
スーダン	12/2	ガダーレフ州	12/1	新規 15 累計 53	
					2
南スーダン	12/2	ユニティ州	11/22~	63 以上	3 以上

イエメン	11/18	ホデイダ Hays	9月	(AWD)1,121	
		同上	10月	(AWD)328	
		同上	11月初旬～	(確定含むAWD)235	3

*22 地区中の 8 地区 (Awutu Senya East、Awutu Senya West、Gomoa East、Mfantseman、Gomoa West、Agona West、Cape Coast、Twifo-Lower Denkyira)

** 死亡者が報告された地域 : Assin North、Assin South、Gomoa West

世界保健機関(WHO)の地域分類による 5 地域および東地中海地域に関する最新情報(2024年 11 月 20 日付)

コレラ、下痢 (AWD : 急性水様性下痢)

国・地域	期間	患者数	死亡者数
WHO 地域分類 5 地域の 33 カ国	1/1～10/27	(コレラと AWD)計 486,760	計 4,018
南スーダン	10/18～	49	1
東地中海地域			
6 カ国(以下に内訳)	10 月	(コレラと AWD)計 28,878	計 236
アフガニスタン		12,296	8
スーダン		10,147	227
パキスタン		5,130	
ソマリア		733	
イラク		571	1
レバノン		1	0
8 カ国(以下に内訳)	1/1～10/27	(コレラと AWD)計 321,146	計 1,218
アフガニスタン		155,383	77
パキスタン		67,703	
イエメン		36,404	159
スーダン		30,362	843
ソマリア		20,159	138
シリア・アラブ		10,563	
イラク		571	1
レバノン		1	0

2. 原因疾患不明（胃腸炎）の死亡、コレラの疑い（ナイジェリア）

Undiagnosed deaths - Nigeria (09): (SO) cholera susp., RFI

24 November 2024

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
ナイジェリア	11/21	ソコト州 18 地域	直近数カ月		計 25

3. コレラ、デング熱：死亡者および患者が増加（スーダン）

Cholera, dengue - Sudan: fatal, increasing incidence, MOH update

23 November 2024

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
スーダン	11/19		11/19 の発表	(新規)328	
			8 月～	(死亡者含む)累計 38,817	1,072

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室